

第23号
2012年11月1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail: kouhou@kshinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



「社会的養護児童の 養育現場を変えてゆく」



社会福祉法人 神戸真生塾 理事
児童養護施設 神戸真生塾

富川 和彦

昨年七月、厚生労働省、社会
保障審議会児童部会による「社
会的養護の課題と将来像」がま
とめられ、それを受けて、この
六月より児童養護施設や乳児院
の「小規模化と施設機能の地域
分散化による家庭養護の推進」
を具体的に推進するためのワー
キンググループによる検討が行
われて参りましたが、八月に「児
童養護施設等の小規模化及び家
庭養護のために（案）」が取り
まとめられて、九月七日には都
道府県・指定都市・児童相談所
の設置市に対して事務連絡が出
されました。

また、同時期の八月十日に社
会保障・税一体改革に係る「子
ども・子育て関連三法」と「消
費税法の一部改正法」が成立し
ました。消費税増税の多くを上
記施策につき込むことが出来る
絶好のタイミングと言うので
す。

以上の事柄は、私たちの児童
養護施設と乳児院に係るもので
すから、静観しておけばよいと
いうものではありません。

私たちの法人には、去る
一九九九年九月にスタートし
た「神戸真生塾の将来像検討研
究委員会」にて取り組んで来た
ところの成果があり、また継続
しておりますので、大きな問題
や課題が直ぐには出てこない
と考えていますが、大きな波とし
ては、社会的養護児童を施設養
護より家庭養護への大きな変換
をしていこうと言うものですか
ら、将来的には施設規模や様式
について多少変革して行く必要
があるものと考えています。

また、十年前に建替え新築工
事を行い、児童養護施設と乳児
院では既に全てのユニットを小
規模グループケアが可能なハー
ドとなっていますし、また一部
は小規模グループを実施してい

ますので、必要なところは、本
体施設定員の縮小と地域分散化
をどう進めるかが頭が痛いところ
です。また一方で、里親支援
のシステムの強化の方法を検討
しておくことが大きな課題とい
うところでしよう。

国としてのこの施策方針で
は、将来の社会的養護児童の養
育は、施設、グループホーム・
ファミリーホーム、そして里親
の三区分で三分の一ずつにして
いこうとするものですから、現
在は約九十%の児童を施設が
担って参りましたので、大きな
変換を求められることとなるの
です。

要保護児童の立場から考えれ
ば、いろいろな議論があるもの
の、家庭的養護に勝る小規模化
グループホーム化、更には家庭
養護そのものの里親委託のほう
が明らかに良いと考えてしま
いますので、以上に述べたとおり、

わが国の児童福祉に大きな変革
をもたらそうとしているのです
から、押し寄せてくる大きな波
をこれからも勇躍乗り越えて参
りたいと考えています。

社会的養護児童に対し、より
良い安心と安全な居場所を提供
できる施設でありたいと願って
まいりました。

職員のケア技術の高度化が更
に要請されることとなるので
しよう。施設長の資格要件の明
確化や自己評価と第三者評価の
受診必須化など、どれも座して
待つことは許されません。

地域をはじめとする、学校、
医療、行政他関係機関の皆様と
のネットの強化と変わらぬご理
解、ご支援を呼び掛けて参りま
す。

二〇一二年度第二回理事会・
評議会資料より





《児童養護 神戸真生塾》 琵琶湖キャンプ



毎年恒例、夏の一大行事である琵琶湖キャンプ。こどもたちは7月に入る頃から、「今年は何日から?」「しおり、いつももらえるの?」などと、とても楽しみにしています。

「お姉ちゃんクーラーつけて!」「節電しないとあかんから、ちよつと我慢して!」なんていう日常から離れ、今年は8月1



日から3日まで、琵琶湖の畔にある復活教会北小松キャンプ場に2泊3日で行ってきました。

1日目。到着後は昼食にオリエンテーション、布団運びなど、水泳開始までには少し時間があります。それなのに水着に水泳帽・ゴーグルも着用し、いつでも泳げる完璧な体勢でうろうろする子どもの姿を見て、可愛いらしく思いました。風が少し強

めだった為、湖での水泳は波がある中で行いました。小学生たちはその波の高さにおおはしゃぎ。波に向かってパンチをしたり、身体を預けたり、浮き輪に乗って揺られたり、楽しみ方はそれぞれです。

湖での水泳が終わる夕方から夕食が始まるまでの時間、シャワーをする以外は自由時間です。虫取りに夢中になったり、湖に石を投げて何回跳ねさせられるかチャレンジしたり、キャビンの中でトランプをしたり、テレビもゲームもクーラーもない環境でそれぞれ楽しみ方を見つけてゆつたりと過ごすこのひと時が、キャンプの良いところのひとつだと感じました。夕食はパーベキュー。毎年、中高生の男子たちが火起しに活躍してく

れているのですが、今年は中高生の参加は希望者のみだったの二人しかいませんでした。職員が頑張らないといけないかな;と思っていたのですが、今年活躍してくれたのは小学生の男子でした。それも高学年の子だけでなく、低学年の子たちも。今まで年上の子たちがしてくれていたことを、しっかり見ていたんだと感じました。これか

らもつともつと身体も心も大きくなり、たくましく成長していくのが楽しみです。

2日目、天気は良好。湖は穏やかで、水も澄んでいて、魚探しに夢中になる子どもたちもいました。1日目には波が少し怖くて泣いてしまった小さな子どもたちも、穏やかな湖には大喜び。また、この日は子ども会主催のプログラムもあります。今年アイスクリーム作り。一からする手作りアイスクリームは、

誰もが初めてだったのではないのでしょうか。多少固まり方があまくても、自分で作ったアイスのおいしさは格別。溶けないようにと急いでデコレーションし、皆でおいしく頂きました。夜といえばキャンプファイヤー。炎を囲んで歌ったり踊ったりゲームをしたり。小さい子から大きい子まで、また職員も、皆がひとつになり楽しいひと時を過ごしました。

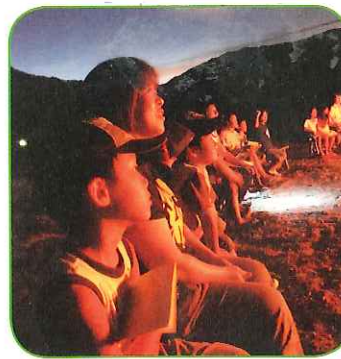
三日目。楽しい時間はあっという間です。片付けや掃除に少し忙しい午前中ですが、少しの時間でも泳ぎたい子どもたち。ぎりぎりの時間まで、目いっぱい湖を満喫していました。帰りのバスに乗り込む前には「ずーっとここにおりたいわ!」なんていう嬉しい言葉も子どもから聞くことが出来ました。私自身、今年初めてキャンプ

の係をさせて頂き、全体を見る事が出来ました。日頃、何かと忙しく動き回ってしまふ職員もこどもと密に関わり、また一緒に楽しむことができ、こどもたちものびのびした時間・空間の中で遊ぶことで日常ではできない貴重な体験を積んでいるのではないかと思います。この3日間の思い出が、子どもたちが将来大人になったときに「あのと楽しかったなあ。」

デイズニーシーへの旅

今年度の夏のレジャーは中高生で話し合い、実費も考えながら行き先を決めました。私が引率させていたのはその内の一、デイズニーシー班です。「自分達でお金を出してでも行きたい」と言うだけあって、行く前からとても楽しみにしていた女児5名が集まり参加しました。

全児慣れない夜行バスで思うように眠れず、寝不足の状態から一日が始まりました。しかし開園すると、目の色が変わり一目散にアトラクションへ走っていき姿には大変驚かされました。その後も自身達で相談しながらパーク内を巡回し、誘惑に打ち克ちながら欲しい物だけを購入する姿は今でも目に焼きつ



と思い出せるひとこまになっていてほしいと思います。伊達

中山

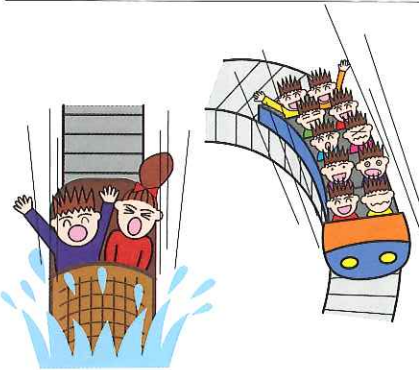
中高生 ナガシマ旅行



今年初めての試みとして、中高生は毎年恒例のキャンプではなく、それぞれが希望したレジャーに参加するという企画を立て、中高生の男女12名でナガシマスパワールドへの1泊旅行に行きました。

車に乗って3時間ほどの道中は、まだ着かないのかとイライラした声も上がりましたが、ホテルに到着するとみんな大喜び。部屋割りを自分たちで決めそれぞれの部屋ではしゃいでいました。その日の夜は長島温泉に行つてめつたにない裸の付き合いをし、いつもよりも和やかに楽しく過ごしました。

翌日はいよいよお待ちかねのナガシマスパワールド。車中から遊園地の高い観覧車やジェットコースターが見えて大興奮！到着後は一目散に思い思いのアトラクションに走っていきました。夏休みが始まってすぐという事もあってか場内は空いており、ほとんど待ち時間なくジェットコースターで絶叫したり急流すべりでびしょ濡れになつたりしながらもそれぞれが思い切り楽しむ事ができました。施設内にいる時は反抗期であまり職員と話さない中高生達も、この日は嬉しそうに



いろいろな話し、お兄さん・お姉さんと笑顔で並んでジェットコースターに乗るなど、普段とは違う空間と一緒に楽しむ事ができ、とても有意義な時間を過ごす事ができました。また機会があれば子ども達と職員が一緒に楽しめるレジャーを企画していきたいと思えます。

金岡

中高生会について

中高生とお兄さんお姉さんの会では、中高生の子どもたちと職員がじっくりと話しあう機会として取り組みを行っています。

今年度は、子どもたちの自立後になにか少しでも役に立つ話を聞いたり、職員と一緒に将来のことを話したりできる時間になれば良いなという思いもあり「自立に向けて」というテーマをあげて取り組んでいます。

第一回日は、導入部分でもあったので、一人暮らしをした場合の食費や、光熱費、家賃、高校卒業後すぐに就職した場合に頂ける平均的な給料などをクイズ形式で出題し、子どもたちが自立後の生活での役にたつ、まめ知識を提供しました。第二回目では、身近な退所生に来てもらい、就職をして苦労していること、真生塾に在籍中に知っておきたかったこと、実際一人で生活して分かったことなど身近なテーマで在籍中のこどもたちに話をする機会をと考えています。

森本



納涼大会

今年8月25日に毎年恒例の納涼大会を開催することができました。昨年とは違って晴天の中で納涼大会を開催することができ、職員一同大変嬉しく思いました。

当日は熱気に包まれる中、乳児院・幼児フロアの子どもの姿も可愛らしい「アンパンマン音頭・ポップンポップコーン」から始まりました。その可愛らしい姿に和やかなムードが漂い、続いて男子フロアの子どもの姿による「Rising Sun」女子フロアの子どもの姿による「あたりまえ体操」「金魚花火」とダンスや歌などを披露してくれました。男子フロアの子どものダンスでは自然と会場から手拍子がはじまり、女子フロアの子どものダンスから笑い生まれ、歌では会場全体が歌声に聞き入り、会場全体に一体感が生まれていきました。毎年ステージに出てくださいているうたっ子クラブとジンガーバンドが今年はコーラボレーションして素晴らしい歌声と演奏を披露してくださいました。

続いて神戸ウインドシンフォニカの方が子どもから大人まで親しみのある演奏をしてくださいました。納涼大会で吹奏楽団の方に演奏していただくのは始めてで、子ども達も管楽器や打楽器の演奏を目を輝かせて見入っていました。

どんどんステージが進行する中、模擬店ではたこ焼き、焼きそば、フランクフルト、がらくた市、ゲーム等の10数店を出店することができました。たくさんの方々に買っていただき大盛況で完売するお店もありました。また今年は子ども達が模擬店の店員として活躍もしてくれており、子ども達にとってもいい経験となりました。

またサブライズゲストとして神戸を中心に活躍されておられるアカペラグループ「Permanent Fish」の方々にお願いいただき素晴らしい歌声を聞かせていただきました。真生塾の子ども達がファンで出演の依頼をかけたところ、お忙しいにも関わらず心よく了承をくださいました。子ども達にとつ

て夢のような時間となり、職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが納涼大会には、多くの方々からたくさんのご協力をいただき、またお忙しい中ご来場くださった皆様方の暖かい支援により納涼大会を開催でき職員一同より感謝しております。ありがとうございます。

大前



ごじきのおぼやき

- ・「今日の夜ご飯、「イカベン」食べたで」それはイカゲソです！ (8歳・女兒)
- ・「お姉ちゃん、今日はノーパンせえへんの？」よく聞くと「入レパン」の間違いでした。 (5歳・女兒)
- ・「幼児玄関前の竹を指さして「この竹の中にお姫様入ってるんやろ？」とかぐや姫を探すKちゃんでした。 (5歳・女兒)
- ・動物園でRくんが「あれ、フラミンゴっていうんで」とKちゃんに教えると「へえ、あれ「臭いやつ」っていう名前や」と思ってたわ (5歳・女兒)
- ・大好きなジュースを飲んでいたKちゃん。何を飲んでいるのか尋ねられ「これ「爽やかなやつ」ジュースやで」と言っているとそれを聞いていたRくん「そのジュースは「スプライト」っていう名前やで」Kちゃん、ナイスネーミング！ (5歳・女兒)
- ・「なんでRくんはお口にワンプイス入ってるの？」口にいれてるのはマウスピースです…。 (4歳・女兒)
- ・パンダを見る度に「クマや！」と大喜びするHくん。確かに似てるけどね。 (4歳・男児)
- ・「お姉ちゃん、誰と結婚するん？」と尋ねられたので「うーん、富川施設長と結婚したいな」と答えると「なんでかわかった、富川さんがお金持ちだからや！」お姉ちゃんはそんなに悪い人間ではありません。 (9歳・男児)
- ・疲れてリビングでウトウト昼寝をしていたKくん。夕方起きて「今、何時？」と言うので「5時だよ」と言っていると「え、朝の？」お昼寝で12時間も寝てないと思うよ。 (7歳・男児)
- ・「ずーっと夏休みやたらいいのにな」と言つので「どうして？」と聞くと「それは俺にしかわからんことやから」と意味深にニヤリとしていた。 (14歳・男児)

今年1月より、当乳児院に入所となった5歳の女の子Kちゃんを紹介したいと思います。Kちゃんは、とても明るく周りのみんなを思わずにっこり笑顔にさせてくれる小さくて可愛らしい女の子です。そんなKちゃんですが、心臓疾患（フォロイ四徴症）、喉頭軟化症、心不全、片腎、染色体異常のため、兵庫県立こども病院に生後5年間入院治療を続けていました。1月の入所当初は、身長88・7cm、



絵カード遊び



《乳児院 真生乳児院》
ベビーサインで
コミュニケーション

主任保育士 福永和美



体重11・1kgしかなく、発達も1歳半から2歳程度の状態でした。歩き方もおぼつかず、転倒も多かったため、ヘッドギアを装着しながらの歩行でした。食事も、当初は離乳食中期程度で栄養製剤を1日4〜5回摂取していましたが、現在は幼児食もよく食べ、お箸も使えるようになっていきます。他兄と一緒に過ごすことで生活面でのあらゆる発達が著しく成長してきました。



時計・時間

入所当初、気管支切開により発声ができないことが懸念されましたが、現在ではベビーサインや手話を用いてのコミュニケーションで他児や保育者と会話を楽しめるまでになっていきます。月に一度、言語療法治療に通院し、絵カードを使いながらサインの勉強をしています。のみ込みの早いKちゃんは、私たち職員よりも先にたくさんサインを覚え、お友達や私たちに一生懸命話しかけてくれます。同じクラスでいつも一緒に過ごしているT君も覚えたてのサインで「Kちゃん、〇してほしいの?」「悲しいの?」とKちゃんの伝えたいことを理解し、優しく語りかけている場面も見受けられます。

気管支切開後のケアについては、毎日の入浴後に看護師によるガーゼ交換と人口鼻の交換、痰の吸引等の処置が欠かせません。職員間の連携を一層深める



いっしょ、いっしょに



おうち



うれしい、たのしい

ことで、Kちゃんの生活が支障なく元気に生活できることを確認しあい、職員間の密接なつながりも深まってきました。

Kちゃんは今では当院での生活に慣れ、7月から公立幼稚園へ毎日、喜んで通園しています。またKちゃんは音楽が大好きで、リトミックに参加したり、ピアノレッスンを受けたたり、法人内での納涼大会で小中学生のダンスに飛び入り参加したりと盛んに活動しています。これからの将来が本当に楽しみです。

現在、家庭への週末外泊を繰り返しながら、来春には家庭引き取りとなり、特別支援学校に入学予定になっています。このまま伸び伸びと成長し続けてくれることを祈ります。

プンブン!!
(怒、嫌)



《真生きりぎり保育園》
保育理念・保育方針
保育目標が新しくなりました!!

この4月より保育理念・保育方針・保育目標を刷新しました。子どもと過ごす保育士たちが、開園当初からの保育理念を踏襲し、より具体的に子どもたちと過ごす姿と連動するように外部の有識者を交えて検討してまいりました。特に、当法人が大切にしている『愛』という言葉について理解を深め、今回も使っています。

保育理念は、キリスト教の精神に基づいた保育の中で、愛を育むとしました。補足説明として、キリスト教における『愛』とは存在そのものを受け入れること。キリスト教における『保育』とは愛をもって人間の基礎形成を援助すること。としていきます。哺乳類の中でも人間の赤ちゃんは生まれてすぐには自分で何もできません。周りの大人、保護者に受け入れられ、守られて育っていきます。赤ん坊は周りの人間に存在自体を受け入れられることによって安心して成長していきます。保育園においても同じように子どもたちの存在そのものを受け入れることを実践し、子どもたちの健全やかな成長のお手伝いができればと願っています。保育方針は

《感謝する心を育てる》、保育目標は、すべての人が、向き合い、大切にしたい、豊かになる、と、日々の保育の中で取り入れています。

今の時代、この「愛」を語る事が難しい時代となつています。世界中の人々が互いに愛することを実践できれば、世の中から戦争がなくなり、平和な社会となるでしょう。お互いが少しずつでも寛容になり、話し合うことができればよいのですが、なかなか争いはなくなりません。また、日本の社会においても、人と人とのつながりが薄れていき「無縁社会」という言葉で表現され、孤独死の問題などが深刻になっていきます。少なくともこの保育園で出会う我々からでもしっかりと子どもたちと保護者の皆さま同士、そして保育者の手を握り合つて、つながりを深めていきながら、共に力を合わせて子どもたちの育ちのお手伝いができればと願っています。子どもたちにとって何が一番大切なことかを共に考えながら良い保育園を作っていきたいと思えます。

園長・上杉 徹

9月の園だよりより



秋の気配が朝夕を中心に感じられるようになりました。子どもたちの口からも「汗をかかなくなってきた」とか「虫の声を聞いた」とか「空の雲が秋の形になっている」といった事柄が出ています。

9月の中旬頃に、その部屋(4・5歳児保育室)で飼っていたカブトムシの「トムちゃん」が一生を終えました。トムちゃんがその部屋のやつて来て、一日の生活の中にトムちゃんの様子をのぞくという日課が出来ました。どちらかと言えば日中眠たいトムちゃんなので、土の上に顔を出していたりするだけで大騒ぎでした。エサのゼリーを食べたりすれば、もう△×○□!!!

そんなある日、トムちゃんの動きが「何だか変」という日がありました。日中からゴソゴソしていました。そして、何日か後に、トムちゃんは動かなくなりました。その報告を息をきらせて私のところに来てくれた何人かの子どもたち。「動かへんねん」「死んだから、どうしたらいい?」と、いつもとは少し違った意味での興奮状態がみ

うけられました。トムちゃんが亡くなって3日後にりんご・めろんぐみで「おわかれ会」をしました。1階の花壇のそばに集まり、お墓として用意した小さな植木鉢にトムちゃんを寝かせ、全員で土を少しずつかぶせていきました。一言ずつ言葉を子どもたちは添えていきました。「トムちゃん、ありがとう」「トムちゃん、忘れないよ」「トムちゃん、頑張つてね」と自然と声を掛けていました。死んだらどうなるのか?という質問も子どもたちから出てきました。「神さまのところへ行く」ということと「土になって、トムちゃんの子どもたち(子孫)の役に立つ」という話をしました。すると、心なしか子どもたちの表情にホッとした様子がありました。みんなで祈りをして、トムちゃんを送り出しました。厳粛な雰囲気でしたが、私にとつただけでなく、何より子どもたちへのトムちゃんからのプレゼントになったような気がします。

4・5歳児クラス担任
森本みずき



NPO法人

「B&F神戸真生塾支部」(認証申請中)

「神戸真ぱち」について

副理事長 中村 純 一

「神戸真ぱち」とは、NPO法人「B&F神戸真生塾支部」(認証申請中)の愛称で、埼玉県戸田市に本部があるNPO法人「B&F」の支部の一つです。B&FはBee and Farmの頭文字を表し、BeeはミツバチでFarmは農場を意味しています。

神戸の児童養護施設「神戸真生塾」の小さな畑にて、ミツバチを育てハチミツを生産し、その収益は当法人の運営と神戸真生塾の支援に充てます。養蜂を通してミツバチの生育環境を支えるための蜜源や菜園づくりにも取り組み、地域の緑化への普及啓発活動と共に地域への活性化にも寄与していこうとするものです。

従来、人の生活圏で生息していたザリガニ、カエル、トンボ、そしてもちろんミツバチも急速に都市から姿を消しています。ため池が埋められビルが建ち、原っぱがマンションに変わり、丘が住宅地になっていく過程で、これらの動物が生きてい

く場所が削られていったのです。農業の使い過ぎも大きく影響しています。特にミツバチはどんな殺虫剤にもきわめて弱く、農薬などを空中にばらまかれたら、ひとたまりもありません。

自分の目の前で生死を繰り返す生きものとのふれあいは、子どもたちにとって自然への入り口であり、その不思議への関心が、生命の尊さ、自然の素晴らしさを感じるチャンスであるはずです。今こそ、子どもたちが虫や花や草木の存在に気づき、直接的な体験をもてるような空間の整備、保護、感性の育成が、それぞれの地域の応じた形で求められているときなのです。

幸い、今年の五月初め、埼玉県NPO法人「B&F」より種蜂二群と養蜂器具一式が寄贈され、児童福祉施設の小さな畑にミツバチの巣箱を設置させて頂きました。当初、大都会のと真ん中でミツバチを飼うことができたのか、子どもたちがハチに刺され

るのではないかと等々、多くの不安がありました。しかし、ミツバチが蜜源となる花を探しに行く距離は巣箱の場所から半径約三キロにも及ぶと言われています。神戸真生塾の南〇三キロメートルの方向には大倉山公園があり、春はウメ、モモ、サクラ、初夏にはツツジが咲き誇っています。公園内の「ふるさとの森」では、各県ゆかりの樹木や、四季折々の花が楽しめ、ミツバチの蜜源となっています。北一キロメートルにはサクラとアジサイの諏訪山公園、三キロメートル先には「森林浴の森一〇〇選」に制定された再度公園があります。さらに、この街には、アメリカカフウ(モミジバフウ)の街路樹が立ち並び、この樹の花も春の蜜源植物となっているのです。「ハチは人を刺す」と捉えられますが、巣箱に近づき、不注意に巣箱を蹴ったり倒したりしない限り、滅多に人を刺さないことも、養蜂を通じて分かってきました。

ミツバチが花から花粉やミツを集める際、植物の受粉が行われます。すると、木々や草花が実を付け、鳥がやって来て害虫を食べてくれます。その鳥は種を運んでくれます。すなわち、地域中に緑や草花がよ

り増えることにも繋がるのです。六月十六日、初めての採ミツでは、一リットルものミツを採ることができました。遠心分離器の取り出し口よりハチミツが流れ出ると、歓声とともに早速味見をする子どもたちから、笑顔がこぼれました。ハチミツの成分はブドウ糖と果糖、水分、デキストリン、ミネラル、ビタミン等ですが、その四分の三はブドウ糖と果糖で占められています。育ち盛りの子どもたちには、このブドウ糖が有効なのです。その後、五回の採ミツを加えて九月までに、合計三五リットルのミツが採れ、児童養護施設の各部屋の食卓を楽しませて頂くことができました。

夏休みのある朝のこと、水まきをしていたAちゃんと保育士さんの声が聞こえてきました。「あ、おねえちゃん、ゴーヤの花にハチさんがとまっている!」「あ、ほんとだ! Aちゃんもいただいているハチミツの元となる花粉と花のミツを採っているのよ。」

「あ、となりの花にいった!」「あの花は雌花よ。花の根本が膨らんでいるでしょう。ミツバチがゴーヤの受粉も助けているのよ。」

「ジュフンって?」「雄花のおしべの花粉を雌花のめしべにつけることを、ゴーヤの受粉と言うの。ハチさんのおかげで、大きなゴーヤができるのよ。ほら、こっちゃんにも、あっちにも!」「ふーん、そうなの! ハチさん、ありがとう!」「Aちゃんもありがとう、水やりを手伝ってくれて!」

機会を見て、地域の子もたちにも、ミツバチが自然の再生に役立っていることを、ハチミツの美味しさとともに伝え、この地域を花と緑でより満たされる街にしたいと思っています。

ミツバチを通して、子ども同士が、子どもと大人が、そして大人同士がより豊かな関係を築く地域社会の構築に、貢献できれば、こんなに嬉しいことはありません。



皆様のご意見、ご要望をお聴きしています。

神戸真生塾苦情処理委員会

- 苦情受付担当者** 難波美智子(子ども家庭支援センター
ロータリー子どもの家 センター長)
森 みずき(真生きらきら保育園 主任保育士)
- 苦情解決責任者** 富川 和彦(児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
綿谷 榮子(乳児院 真生乳児院 施設長)
上杉 徹(保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 第三者委員** 森光 規之(当法人 監事)
中村 悦子(主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数** 平成24年 7月より10月末まで 0件

ロータリー子どもの家は、児童福祉法に基づく児童家庭支援センターとして、神戸市から認可を受けています。二〇〇五年度の四月より、従来の活動とともに、子どもと家庭についての専門相談機関として、働いています。



毎日、午前9時～午後6時、
緊急のご相談は夜間もOKです。

子育てに
困った時は
先ず電話！

子育てホットライン(相談専用)

TEL.078-341-6493

**神戸真生塾子ども家庭支援センター
(ロータリー子どもの家)**

Homepage <http://www.rotary-kodomoie.org/>

編集後記

厳しい暑さが続く夏の日々がやっと終わり秋の訪れを感じるようになってきました。夏の大きな行事、琵琶湖キャンプや夏祭りも皆様のご協力もあり無事に終えることが出来ました。

そして子どもたちにとっては素晴らしい思い出がまた一つ増えました。

ついでには各記事に記されておりますのでぜひ読んで子どもたちの様子を感じていただければと思います。

毎回載せている「子どものつぶやき」ですが、この記事を集める時が私ほとても好きで子どもたちの豊かな発想に思わず笑ってしまいます。

自分自身も子どもたちのユーモアと発想の豊かな心を持てるようになりたいと思います。

日々子どもたちと一緒に過ごす中でとても面白い事やさまざまな考え方もあり私たち大人もハッとさせられることばかりです。

また忙しい日々の中で気づかないことが沢山ありますが、子どもたちと会話を楽しみながら笑いの絶えないのが一番大切なのではないかと思えます。

次号もまた沢山の話題を取り入れ皆様にお届けできるように努めていきますのでどうぞよろしくお願い致します。

増本